

# 自然観察 NOW

野幌森林公園自然情報

平成22年度 NO1

平成22年4月22日発行

北海道ボランティア・レンジャー協議会



これは、4月15日のシナノキの冬芽です。まだ、冬眠中です。今年のサクラの開花予想は、大型連休の終わり頃と予想されていますから。野幌森林公園の木々の目覚めは、5月中旬頃でしょう。

目覚めが早いと、朝夕の寒さや霜の害を受けます。目覚めをいい時期に行う能力は、木々が途方もない長い年月の中で遺伝子情報として組み込まれたものです。世代を重ね、生き抜き、命をつないできた能力です。

これからの観察視点

- 1, 芽吹き早い木と遅い木があります。目覚めの遅い木はどれかな。
- 2, 芽吹きの色は、木によって違います。鮮やかな緑、紅色、銀白色など。いろいろな色を見つけましょう。



このハンノキの写真は、3月24日に野幌森林公園で写したものです。早くも雄花穂(ユウカスイ)が大きく成長しています。シラカンバ、ケヤマハンノキ、アサダ、ツノハシバミなどは、早い時期から雄花穂が大きくなります。いずれも風の力を借りて花粉を飛ばします。虫の力を借りないので、蜜は出さない、

花びらはない。あるのは、雌しべと雄しべという花のつくりです。木々の葉が茂っていないから花粉は風に乗って遠くまで飛んでいくでしょう。花粉を飛ばすのにいい時期を選んだ巧みな生き方です。

これからが花粉の時期です。花粉症のアレルゲンの一つにシラカンバ花粉があります。



エゾユキウサギとエゾヤチネズミの食痕です。どちらも風倒木被害の再生事業としてボランティアの人たちが植林したシラカンバの木が被害を受けています。両者とも林業に害を及ぼす動物です。

- 1, エゾユキウサギとエゾヤチネズミの食痕の違いは？
- 2, 左の木は、芯まで食べられていました。立ち枯れるでしょうか、頑張って成長していくでしょうか。
- 3, エゾヤチネズミに食べられたシラカンバは助かるでしょうか。食痕は木の周囲を一周していますが、木部が露出していない状態です。



4月から5月にかけての林床は、一年を通して最も賑やかです。スプリングエフェメラル（春のはかなきもの）と呼ばれる春植物の開花が始まります。およそ3ヶ月で、発芽、開花、結実を終わらせる短距離ランナーです。

寒冷環境に耐えなければなりません。まだ昆虫の活動の少ない中で受粉もしなければなりません。

フクジュソウの花はパラボラアンテナの形をしています。太陽の光を集めた柱頭付近の温度は外気温より6℃ほど高くなるそうです。集まってくる昆虫は、ほとんどがハエやハナアブなどのハエ目昆虫。虫媒花なのに蜜を出さないフクジュソウは、温かい居場所を提供することによって花粉の媒介をしているのです。

パラボラ形のアンテナは太陽を追いかけます。花も茎も葉も全体で太陽を追いかけます。「観察した200花のうち約50%は正確に太陽を追いかけており、太陽の方向からの偏差が90度以内のものまで含めると95%に達する。太陽と反対方向を向いていたものは全体のわずか5%程度であり、そのほとんどは立木の影にあたり、ほかの植物に邪魔されて花の向きを変えることができないものであった。」（北海道大学・工藤 岳氏の論文「パラボラアンテナで熱を集める植物～太陽を追いかけるフクジュソウの花」から引用）



3月24日。大沢口の木の洞にフクロウが飛来しました。私が通りかかったときは発見されたばかりだったので見物人は少なかったです。それから数日はイッパイの人で賑わったことでしょう。目をつぶり、春の光を浴びて、人の喧噪をものともせず、身体を休めていました。

フクロウは、猛禽類で夜行性のハンターです。エゾヤチネズミやトガリネズミなどの夜行性の小動物をハンティングします。すごく胃が丈夫なのでしょう、丸呑みにするそうです。消化のできない骨や毛はペリットとしてはき出します。

夕方、見張っていた自然ふれあい交流館の濱本・扇谷さんの情報によりますと、このフクロウは、午後6時15分頃、森のおくに向け飛び立ったということです。夜のハンティングに向かったのでしょうか。その後、このフクロウは居を変えました。行き先はわかりません。

## 観察会の予定

- 5月9日 春の有り難う観察会 午前10時～午後2時半 自然ふれあい交流館集合  
昼食・ゴミ袋・軍手持参
- 5月30日 三角山登山観察会（ボラレン主催）午前10時～午後2時  
緑花会館登山口集合解散・昼食持参・三角山から大倉山まで歩きます